

月経期皮下水分と血中プロゲステロン濃度との関連性

○藤田 日奈<sup>1</sup>, 小菅 弘美<sup>1</sup>, 与茂田 敏<sup>1</sup>, 浜崎 景<sup>2,3</sup>, 糸村 美保<sup>2,4</sup>, 寺島 嘉宏<sup>2,4</sup>, 浜崎 智仁<sup>2,4</sup> (1クラシエ製薬, 2ポリエン, 3富山大医, 4富山大和漢研)

【目的】女性の正常なホルモンバランスは、排卵後にエストロゲン (Eg) と共にプロゲステロン (Pg) が増加し、月経前になると両ホルモンが急激に減少する。これまでの研究より、月経期に不調を訴える女性では額部皮下水分値が高く、これが月経期に Pg が減少しないためと考察した。今回は、月経期の血中ホルモン濃度、皮膚水分及び心身の不調 (不定愁訴・気分プロフィール) との関連を調査した。

【方法】20～40 歳代の健常女性 40 名を対象に、月経期に採血を行い、血中エストラジオール (E2) 及び Pg 濃度を測定し、同時に自覚症状アンケート、気分プロフィール検査 (POMS)、分極電流計による皮下水分 (BP 値) 計測、油水分測定機 (WSK-P500U) による表皮水分計測を行った。

【結果】1) 加齢に伴い月経期の血中 Pg 濃度は顕著に低下したが、E2 は年代による差がなかった。2) 月経期額部皮下水分 (BP 値) が高いほど血中 Pg 濃度が高く、Pg の水分貯留作用の影響が示唆された。3) 月経期に立ちくらみや顔の紅潮、痛み (頭痛や下腹部痛) を自覚する群では額部 BP 値と血中 Pg 及び E2 濃度が共に高かった。4) Pg 高値群では POMS 「疲労」及び「緊張-不安」得点が有意に高く、ストレスとの関連が示唆された。

【考察】月経期の心身不調は、月経期に減少するはずの女性ホルモン濃度が高いことが関係すると考えられた。その結果として額部皮下水分が増加したと思われる。